



急性期脳卒中には三つの症状があります。①顔の半分がゆがんでいる、笑顔が上手に作れない(顔＝Face) ②どちらかの腕の動きが悪い。両腕を前に出すとまひ側が垂れてくる(腕＝Arm) ③しゃべりにくい(言葉＝Speech)です。これらの症状があれば脳卒中の可能性が高いので、できるだけ早期の治療が必要です(時間＝Time)。FAST(ファスト)と書かれた、ポスターを見たことがあるかもしれません。

脳卒中は、脳の血管が詰まる脳梗塞と血管が破れる脳出血の総称です。脳梗塞はさらに、動脈硬化で狭窄をきたした血管内で血液が乱流を起したり、よど

夏はFASTにご用心！



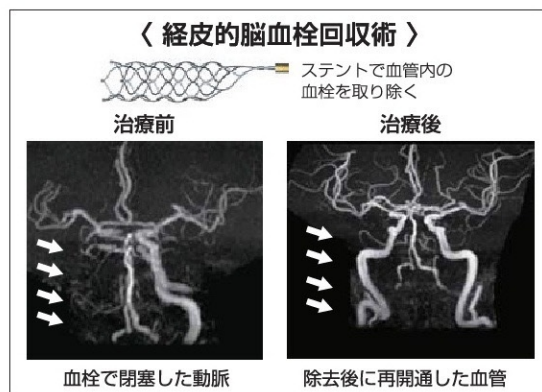
循環器内科医

上野勝己氏

んだりして固まり血栓ができて詰まるアテローム血栓性脳梗塞と、心臓や大動脈などから血の塊が飛んで、いきなり血管が詰まる塞栓性脳梗塞(心原性脳梗塞)があります。

梅雨が終わり暑い夏がやってくる、血圧が低くなるために脳出血の頻度は減りますが、逆に増えてくるのがアテローム血栓性脳梗塞です。脱水で血液が固まりやすくなり、狭窄箇所が血管が詰まるためです。この時期、脱水をさらに助長するのがアルコールです。お酒には利尿作用があります。酔ってそのまま寝てし

増える「血栓性」脳梗塞



まうと脱水が進行し、ピークとなる朝方に脳梗塞を発症します。飲酒時には、十分に水分補給をしましょう。

心原性脳梗塞は、季節の変わり目や冬場にやや多いようですが、1年を通じて発症します。血液が固まりやすくなり、血栓ができて、すくなるこれからの季節は、予防薬を飲んでいても

油断できません。

心原性脳梗塞は、心房細動という不整脈が原因で起きます。心臓は左右の心房、心室と四つの部屋からできていますが、心房細動は左右の心房の筋肉全体が異常興奮するために心房がブルブル震えるだけで、まったく収縮しなくなる病気で、心房がポンプとして働かなくなるため、急に起き

ると血圧が下がって目まいがしたり、動悸がしたりします。しかし、心室がすぐにしっかり働いて助けてくれるので命に別状はありません。問題は心房が動かなくなるために、心房内で血液が「よどむ」ことです。アテローム血栓性脳梗塞と同

「心原性」は血の塊が大きく

じで血流のよどみによって、血液の凝血塊(血栓)ができます。この塊が脳に飛ぶと、脳梗塞を起こします。アテローム血栓性脳梗塞との違いは血栓の量です。アテローム血栓性脳梗塞は血栓量が少ないので、早期であればt-PAという血栓溶解薬の点滴療法が有効です(発症から4時間半以内の投与開始が必要)。

しかし心原性脳梗塞は、非常に大きな血栓が直径10ミリの近くある脳の太い血管を一気に詰めてしまい、生命予後が悪いのです。大量の血栓は薬では溶かすことができません。脳外科医による、経皮的脳血栓回収術という特別なカテーテル治療を、早期に受けることが必要です。発症から8時間以内に治療を開始しなければなりません。病院にはできないだけ早く(FAST)行くべきです。(松波総合病院心臓疾患センター長、羽島郡笠松町田代)